

千代田区公園づくり基本方針(案)

～千代田の歴史を継承し 次世代を育む 居心地よいコモンスペースを目指して～

令和6年〇月

はじめに

区長コメント

令和6年〇〇月
千代田区長 樋口高顕

目次

第1章 千代田区公園づくり基本方針について	2
1. 方針の背景と目的	2
2. 方針の対象	3
3. 方針の位置付け	4
4. これまでの公園を取り巻く環境の変化	5
5. これからの公園行政が目指す方向性	5
第2章 公園等における現状と課題	7
1. 人口の増加と公園面積の関係	7
2. 緑の状況	8
3. 公園の整備状況	9
4. 公園の施設の整備状況	12
5. 公園の機能	14
6. 公園の利用状況	17
7. 地域毎の特性	24
8. 区立公園の課題	25
第3章 公園づくりのビジョン	27
1. 基本的な考え方	27
2. 基本理念（コンセプト）	28
3. 基本方針と施策	29
第4章 公園づくりのアクションプラン	40
1. 計画の実現に向けて	40
2. これまでの取り組み	42
3. 今後の公園づくりの取り組み例	46
4. ソフト事業の拡充	50
5. 他事業・他区との連携	51
6. 公園施設の維持管理	54
7. 公園づくりの目指すべき姿	55
8. 進行管理	58
9. 公園施策の進化に向けて	59

第1章 千代田公園づくり基本方針について

第1章 千代田区公園づくり基本方針について

1. 方針の背景と目的

【背景】

千代田区では、平成19（2007）年5月に千代田区公園・児童遊園等整備方針（以下、「整備方針」という。）を策定しました。公園は、誰もが利用でき、安心して過ごせる場です。また、都市部にとって貴重なうるおいのある緑の景観、多様な生き物の生息空間、災害時の避難場所、都市気象の緩和、雨水の貯留浸透、地域コミュニティの醸成など様々な役割を果たす重要な都市インフラです。

本方針により公園整備を進め、現在58箇所の公園・児童遊園・広場が開園され、多くの方が利用しております。

一方で、整備方針策定後16年余が経過し、都市部の人口増加や都市開発など、公園を取り巻く環境は大きく変化しています。

都市にうるおいをもたらせる公園の魅力を最大限引き出した公園づくりを推進するため、公園機能の見直しを図り、千代田区の公園の整備・管理に関する考え方を示す「千代田区公園づくり基本方針」（以下、「本方針」という。）として改定します。

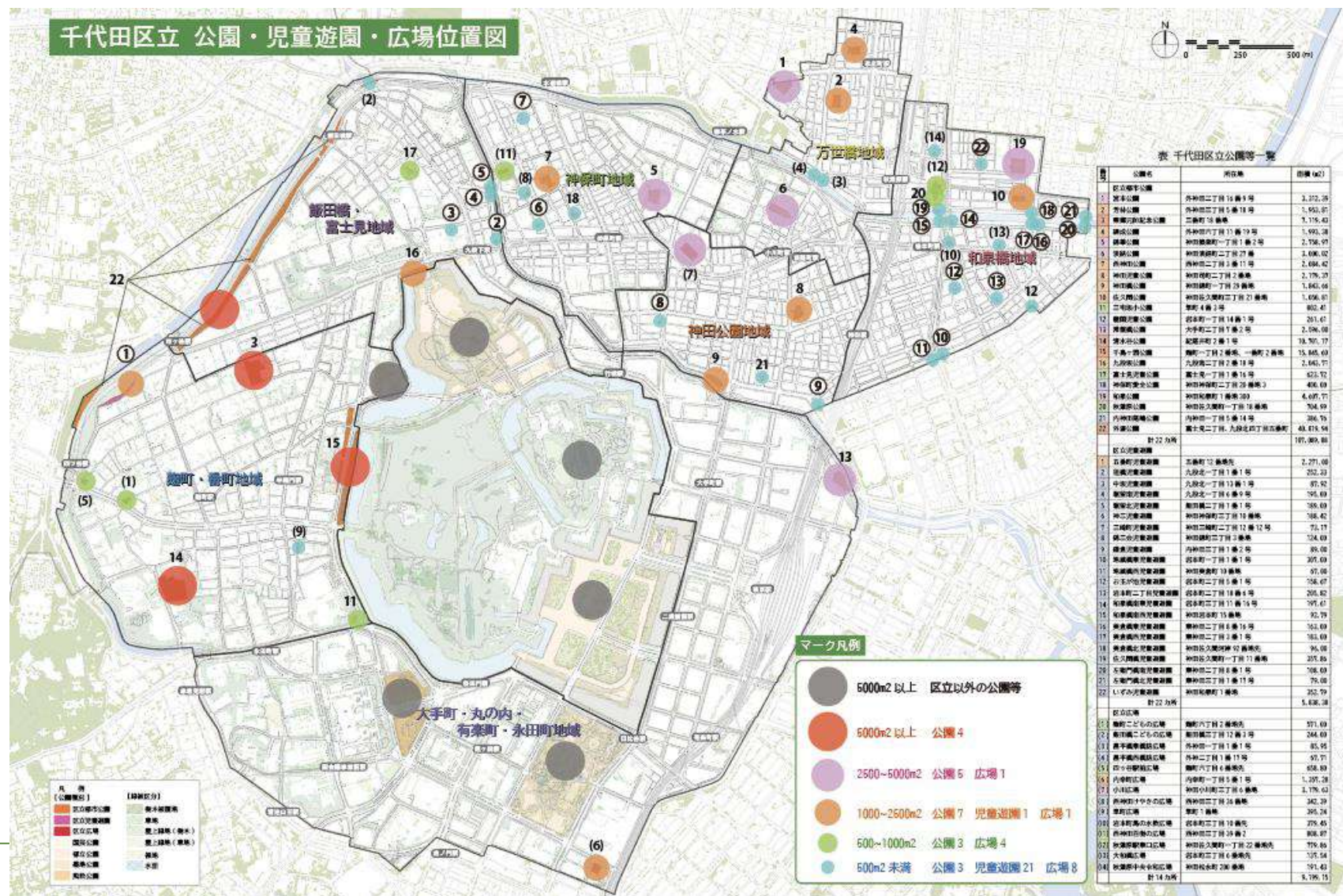
【方針期間】

本方針は、令和6（2024）年度から令和22（2040）年度を展望とする長期的な方針とします。

※社会・経済状況の急激な変化、人々のニーズの変化により、見直しを検討する場合があります。

2. 方針の対象

本方針では、千代田区が管理する58箇所の公園・児童遊園・広場を対象とします。（以下、千代田区管理の58箇所の公園・児童遊園・広場を「公園」という。）東京都が管理する日比谷公園や環境省が管理する北の丸公園、皇居外苑、千鳥ヶ淵戦没者墓苑、衆議院が管理する国会前庭、宮内庁が管理する皇居東御苑は対象外とします。



3. 方針の位置付け

千代田区では、令和5年3月に策定した「千代田区第4次基本構想」、同年月に策定した「千代田区都市計画マスタープラン」を上位計画とし、令和3年7月に策定した「千代田区緑の基本計画」を策定しています。そのため、本方針は都市緑地法に基づく都市公園の管理方針として、千代田区緑の基本計画の一部として位置付けます。

千代田区の子育て支援方策「千代田区次世代育成支援行動計画」の中で、安心して子育てできるまちづくりを達成する具体的な事業として「公園・児童遊園の整備」を挙げており、誰もが利用しやすく開かれた公園をめざし、地域住民の参画を得て、公園や児童遊園の整備を行います。

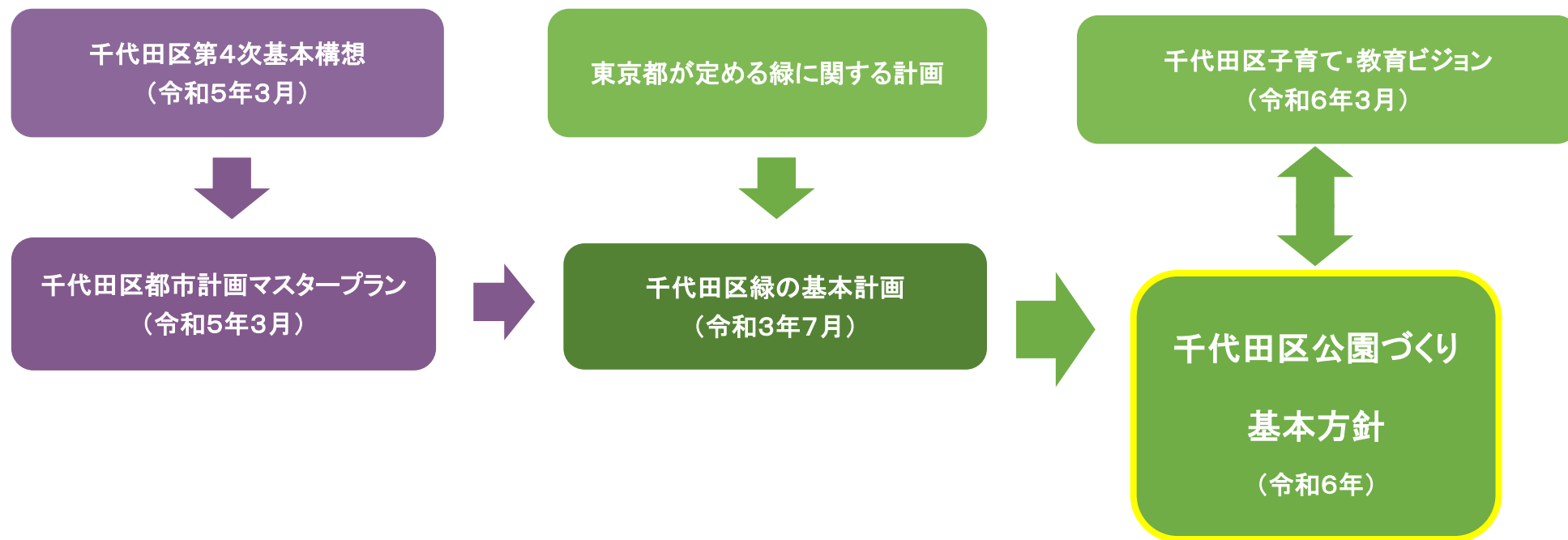


図 本方針と上位関連計画との関係

4. これまでの公園を取り巻く環境の変化

平成時代のバブル経済の頃、商業化が進んだ一方で、ビジネスマンたちの憩いの場として公園が利用されることも多い状況でした。バブル時代終了後も、人口は増加傾向にあり、公園は貴重な子どもたちの遊び場となっております。

当時の区民人口は約3.9万人とされ、令和3年度に約6.7万と人口増への転換やさまざまな都市開発等によって、公園を取り巻く環境は大きく変化しています。

平成17年には、「千代田区次世代育成支援行動計画」において、安心して子育てできるまちづくりを達成する具体的な事業として、「公園・児童遊園の整備」を挙げ、平成19年の「千代田区公園・児童遊園等整備方針」を基に整備を進めてきました。

平成25年には、将来を担う子どもたちが、外遊びを通りして健やかにたくましく育つことのできる社会を築くために「千代田区子どもの遊び場に関する基本条例」が制定されました。しかしながら、児童遊園でありながら、実際には多くの人々が喫煙スペースとして利用されている課題がありました。公共の場での喫煙に対する意識の変化とともに、平成26年から条例により公園内の喫煙を禁止されはじめました。公園は一部の大人たちの憩いの場から、より幅広い年齢層に利用される場所へと変化してきております。

現在は、公園は地域住民、特に子どもたちにとっての重要な利用の場となっており、その役割はこれまで以上に大きなものとなっています。

このように、公園は時代の変遷とともにその役割も変化し続けてきました。今後も公園は地域の人々にとって大切な場所であり続けます。そのためには、公園がどのような役割を果たすべきなのか、地域のニーズに応じた運用が求められています。

5. これからの公園行政が目指す方向性

2017年に都市公園法が改正され、**住民参加の拡大**や**民間活力の導入**など新たな公園を活用する可能性が生まれています。

地域の関係者と公園管理者が公園利用の方法について話し合う協議会の設置

民間の優良な投資を誘導することで公園管理とする「公園設置管理制度（Park-PFI）の創設」など

本方針を策定することにより、千代田区で暮らす人、働く人、訪れる人、事業を始めたい人など千代田区に関わる多様な人と協働し、これまでの行政主体の整備から、官・民が一体となって公園をより魅力的な場所に創り育てていくことを目指します。

第2章 公園等における現状と課題

第2章 公園等における現状と課題

1. 人口の増加と公園面積の関係

【人口増加】

- ・ 現行の整備方針が策定された平成19年度の人口は **44,954人** であったのに対し、令和5年度時点では **67,049人** に達しており、**約1.5倍の増加** となっています。
- ・ 千代田区で特徴的な要素は、**昼間人口の多さ** で、令和2年度国勢調査の結果では、**昼間人口は116万9千人※**にのぼります。区民だけでなく、区外からの来街者の公園利用についても留意する必要があります。※昼間人口の数値は、国が公表した不詳補完値による。

【一人あたりの公園面積の減少】

区民に身近な千代田区の公園の面積を区民人口で割ると **4.19㎡/人**（令和4年度時点）となります。
都市部である千代田区では、公園面積を増やすのは難しい状況です。
人口が増えますと、一人当たりの公園面積が減少するという関係にあり、道路や公開空地など公共的空間を公園のように使える取組が必要です。

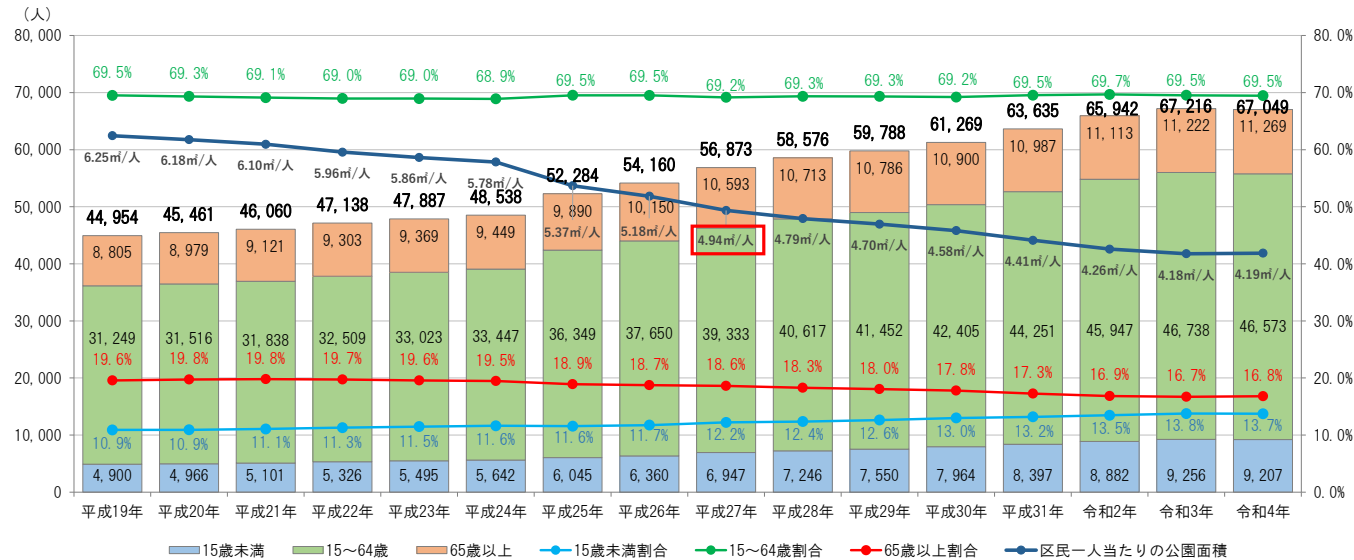


図 千代田区人口及び区民一人当たりの公園敷地面積 ※広場含む
（出典：住民基本台帳登録人口（令和4年1月1日時点））

2. 緑の状況

千代田区の緑をみると、江戸城は皇居に受け継がれ、区の中央に位置する皇居や北の丸地区を中心とした区内最大の緑地があります。また、他にも外濠、靖国神社、国会議事堂前庭等にまとまった緑が分布しています。緑は、生物多様性の保全、ヒートアイランド現象の緩和、雨水の浸透、美しい景観機能の形成など多様な機能があるため、緑の自然環境と都市機能の調和が重要であり、公園においても取組を強化し、これらに寄与していく必要があります。

特徴1
皇居と区内西部の麹町・
富士見側の緑が点在



特徴2
神田地域の緑の分が少ない。

3. 公園の整備状況

(1) 公園の面積と公園施設の設置位置

区内には、現在58箇所、約12haの区立公園が整備されています。

このうち500㎡未満の公園は、32箇所であり、約半数が面積の小さな公園です。

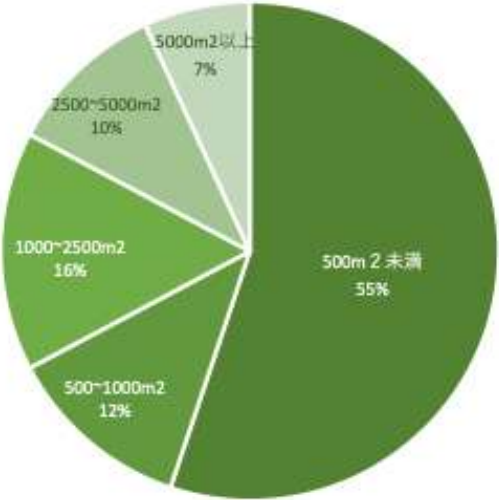
現在の小さな公園は、遊具がほとんどなく、ベンチと植栽があるのみの整備の状況です。

次のページに現在の区立公園でできることをまとめたマップ
(できごとマップ)を示します。

すべり台・ブランコなどの遊具の公園施設の配置と子どもの遊び場事業の実施状況を示しています。

表 公園の面積

種別	公園数	面積 (m2)
500m 2 未満	32	6459.46
500~1000m2	7	4949.65
1000~2500m2	9	16777.44
2500~5000m2	6	19454.72
5000m2 以上	4	74486.14
合計	58	122127.41

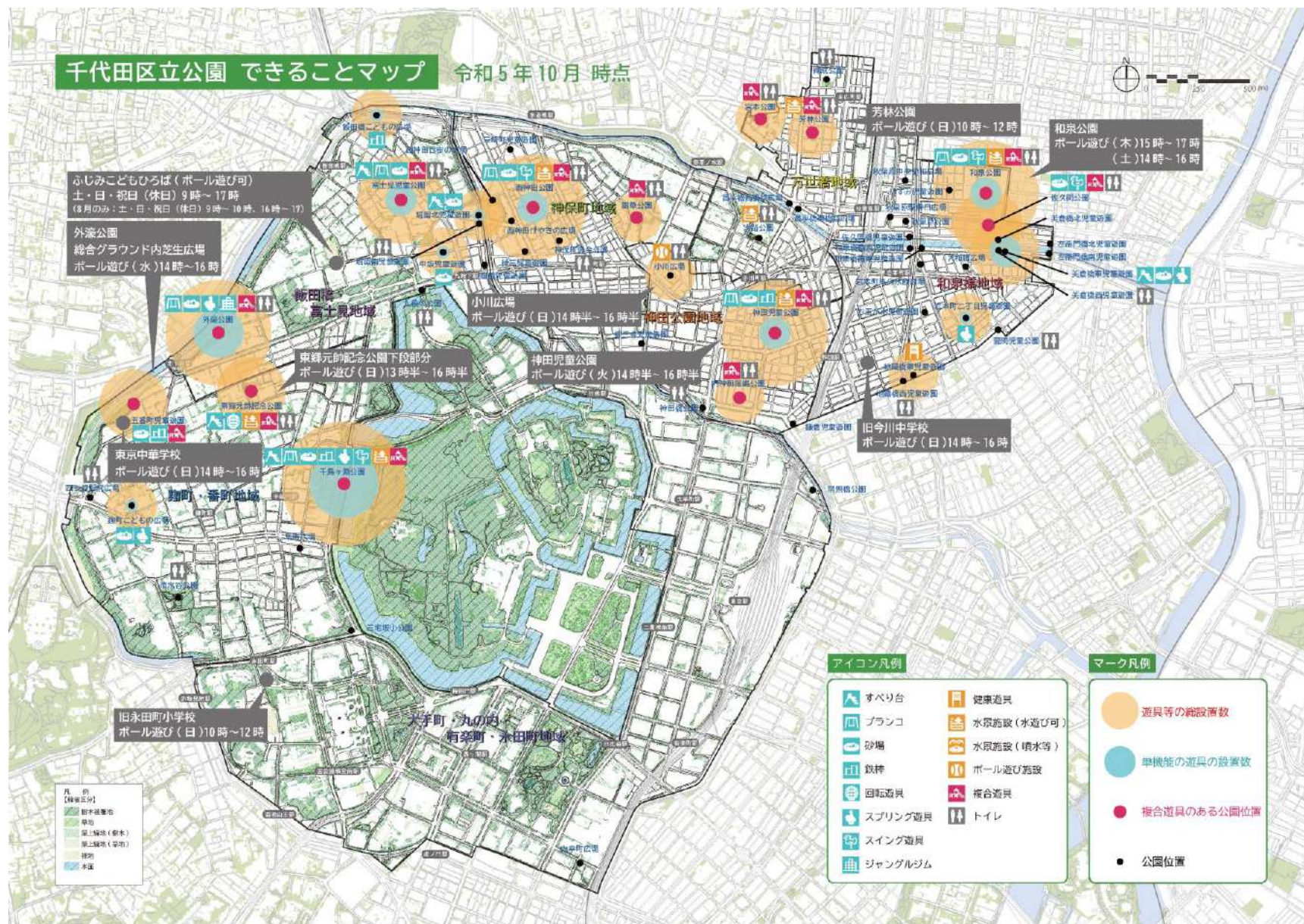


子どもの遊び場事業とは

子どもの遊び場事業とは、子どもたちを見守ってくれるプレーリーダーが遊びや手伝いや道具の貸出しを行い、時間・場所を限定してボール遊びなど自由に楽しく遊べる事業のことです。



第2章 公園等における現状と課題

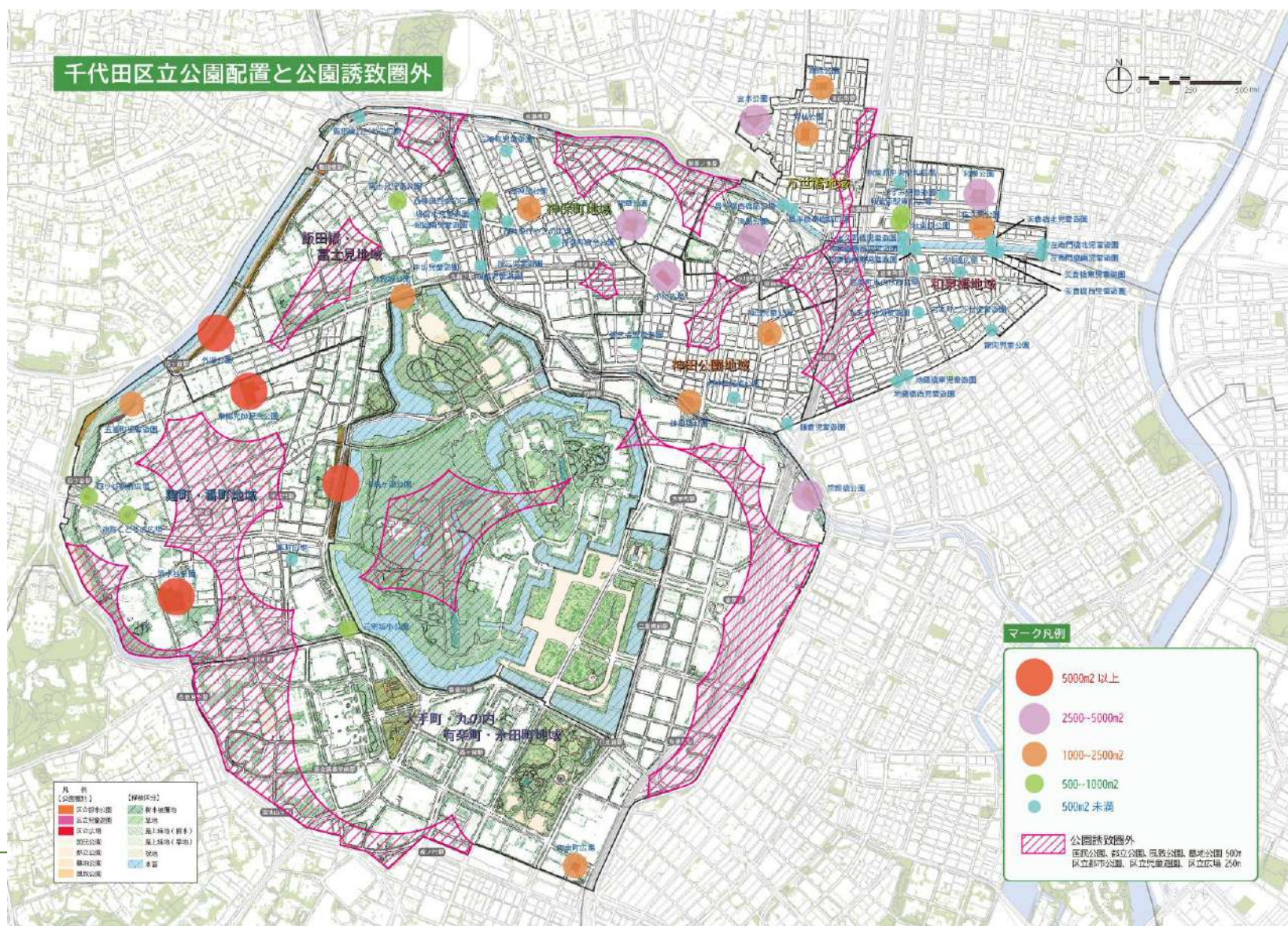


(2) 公園の配置と公園利用しやすい範囲

大きな公園（2500m²以上）の配置は、地域間で偏りがみられます。

下に示めす図面右上の和泉橋地域はほとんどが小さな公園（500 m²未満）の地域です。

地域住民が公園の利用がしやすい範囲（誘致圏）の外側の箇所も存在し、公園もしくは公園的利用ができる場所の配置計画が必要です。



4. 公園の施設の整備状況

(1) 遊戯施設

複合遊具、ブランコ・すべり台・砂場などといった子ども向き遊具は、約3割程度（18公園）にとどまっています。年齢を問わず利用できる健康遊具についても約1割弱整備されております。次世代を担うこと目の目線を大切にしたい取組の推進やこどもたちが楽しく元気に遊び、子育て環境の向上に資する場として利活していく必要があります。

公園面積	公園数	遊戯施設	
		子ども向きの遊具	健康遊具
500㎡未満	32	5	1
500～1000㎡未満	7	2	0
1000～2500㎡未満	9	5	1
2500㎡～5000㎡未満	6	3	1
5000㎡以上	4	3	2
合計	58	18	5



千鳥ヶ淵公園のブランコ



西神田公園の健康遊具

(2) 運動施設

運動施設は、外濠公園内のテニスコート・野球場（サッカー場）は1箇所、小川広場内のフットサルコートの1箇所のみの状況です。テニスコート・野球場（サッカー場）、フットサルコートは、原則予約が必要です。現状では、公園内で自由にボール遊びができる公園施設は一切ない状況であり、利用者がボール遊びを楽しむための適切な場所が確保されていないという大きな課題を示しています。したがって、ボール遊びが可能な場所を創出することは、公園利用者の満足度向上と公園の機能強化にとって必要になっています。



12 外濠公園総合グラウンド



外濠公園総合グラウンド テニスコート



小川広場 フットサルコート

(3) 便益施設

水飲みやトイレといった便益施設としています。水飲みは、22箇所の公園に整備されています。トイレは、24箇所の公園に整備されており、すべてバリアフリートイレです。公園のトイレは汚れやすく、維持管理が課題です。



公園面積 (㎡)	公園数	便益施設	
		水 飲 み	ト イ レ
500未満	32	7	6
500～1,000未満	7	2	2
1,000～2,500未満	9	6	7
2,500～5,000未満	6	4	5
5,000以上	4	3	4
合計	58	22	24

表 便益施設の数

(4) 休憩施設

ベンチとスツールといった休憩施設としています。44箇所整備されています。ベンチは、友人や家族との会話、読書、自然観察など、さまざまなアクティビティをサポートします。使いやすさと快適さを考えた配置や数が重要です。



公園面積 (㎡)	公園数	休憩施設		
		ス ツ ー ル ・ 等	野 外 卓	四 阿
500未満	32	23	1	0
500～1,000未満	7	3	0	0
1,000～2,500未満	9	8	0	1
2,500～5,000未満	6	6	0	0
5,000以上	4	4	1	0
合計	58	44	2	1

表 休憩施設の数

5. 公園の機能

公園には、顕在的に見える遊び場や憩いとしての機能だけではなく、潜在的な機能も含めて、以降に示すような多様な機能を有しています。

「自然環境機能」「憩い機能」「防災機能」の3機能については、全ての公園に備わっている機能です。

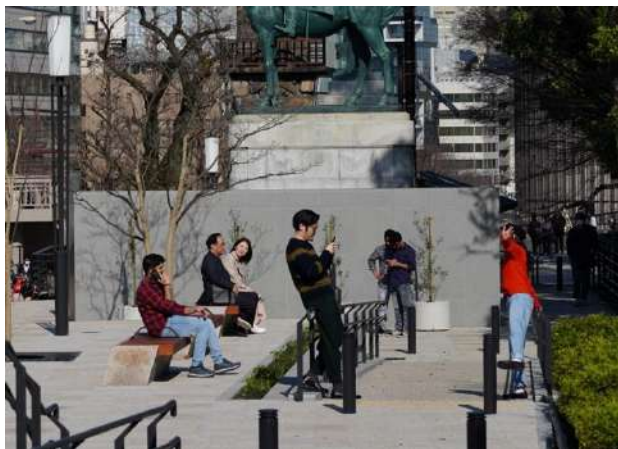
全ての公園に備わっている機能

自然環境機能



植物や生物のすみかとなる樹木や水辺空間

憩い機能



都市の中で生活に潤いを与え憩いの空間となる

防災機能



災害時の避難場所や避難路、延焼防止や復旧復興時に活用する

前項の3機能と違い、公園によってそれぞれ有している機能が「歴史資源機能」「シンボル機能」「コミュニティ形成機能」「運動・遊び場機能」「先駆的活用機能」の5つです。

現状の千代田区の公園における、これら5つの機能について分布を表した図が右のマップです。

地域の中心となる公園には多くの機能が備わっており、その公園を中心としたエリアでの機能連携が必要です。

歴史資源機能

●/58 公園が保有



地域の歴史を継承する
(神社と隣接した公園や震災復興小公園、歴史的な記念碑、銅像などが建てられている公園)

シンボル機能

●/58 公園が保有



地域のシンボルとなり、良好な景観を形成する
(立地的に重要である場所に位置している公園や、日常的に多くの方に利用されている公園等)

コミュニティ形成機能

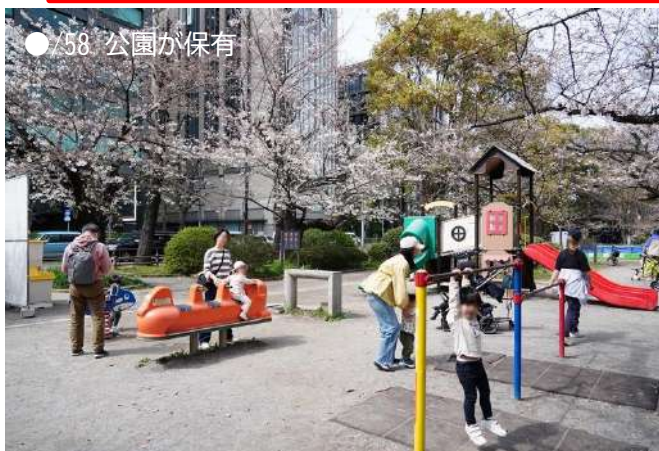
●/58 公園が保有



地域の交流の場となりコミュニティを醸成する
(祭りやイベント等に利用されているなど、1年の中で利活用している公園が該当)

運動・遊び場機能

●/58 公園が保有



運動の機会を増やし、子供の健全な育成や健康寿命の延伸に寄与する
(遊具が多い、自由な遊びができるなど、子どもが遊ぶ機能を有している公園)

先駆的活用機能

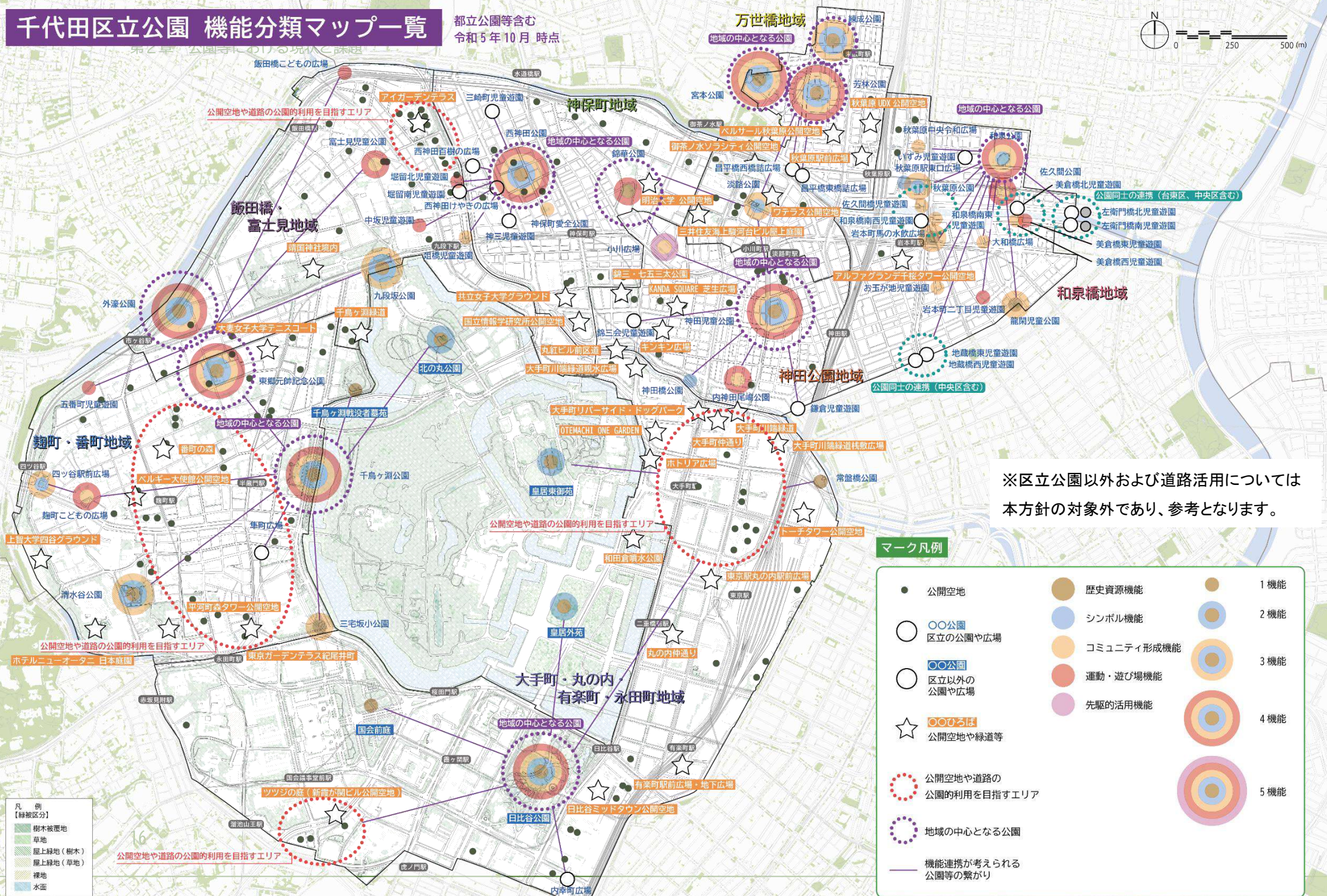
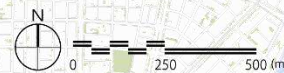
●/58 公園が保有



住民のやりたいアクティビティを実現し、地域の活性化を図る
(プレーパークやスケボーパーク、ドッグラン等)

千代田区立公園 機能分類マップ一覧

都立公園等含む
令和5年10月時点



※区立公園以外および道路活用については
本方針の対象外であり、参考となります。

マーク凡例	
● 公開空地	● 歴史資源機能
○ ○○公園 区立の公園や広場	● シンボル機能
○ ○○公園 区立以外の公園や広場	● コミュニティ形成機能
☆ ○○ひろば 公開空地や緑道等	● 運動・遊び場機能
○ ○○ひろば 公開空地や緑道等	● 先駆的活用機能
○ ○○ひろば 公開空地や緑道等	● 1 機能
○ ○○ひろば 公開空地や緑道等	● 2 機能
○ ○○ひろば 公開空地や緑道等	● 3 機能
○ ○○ひろば 公開空地や緑道等	● 4 機能
○ ○○ひろば 公開空地や緑道等	● 5 機能
○ ○○ひろば 公開空地や緑道等	● 機能連携が考えられる公園等の繋がり

凡 例	
緑地	樹木被覆地
緑地	草地
緑地	屋上緑地(樹木)
緑地	屋上緑地(草地)
緑地	裸地
水	水面

6. 公園の利用状況

(1)公園利用調査の概要

千代田区では58の全公園・児童遊園・広場を対象に①アンケート②Web アンケート調査③調査目視によるカウント調査④公園利用者へのヒアリング調査⑤街頭インタビュー調査を行っています。現状のニーズやご意見を広く伺うために、さまざまな形態で調査を行い十分な調査結果を得ることができました。以下にその概要を示します。

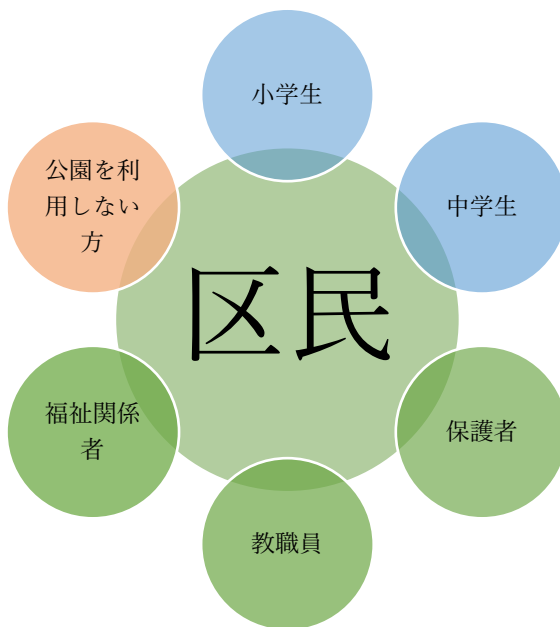


図 調査対象

①アンケート調査

- ・調査対象：区民＋区内全域の小学校児童と保護者及び中学校生徒、区内全域の幼稚園・保育施設の保護者、各施設の職員等
- ・調査方法：郵送によるアンケート調査票配布及びQRコードによるWeb アンケート調査
- ・調査期間：令和4年10月17日（月）～12月16日（金）まで（Web アンケート調査は、12月28日（水）まで）
- ・区民アンケート総数：2,000、うち回答数680（回収率43.0%）

②Web アンケート調査

回答数：520件

③カウント調査

・調査実施により平日118,236人、休日108,675人、合計226,911人のサンプル数を得た。

④ヒアリング調査

・調査実施により平日1,082人、休日1,261人、合計2,343人のサンプル数を得た。

⑤街頭インタビュー調査

回答数：611件

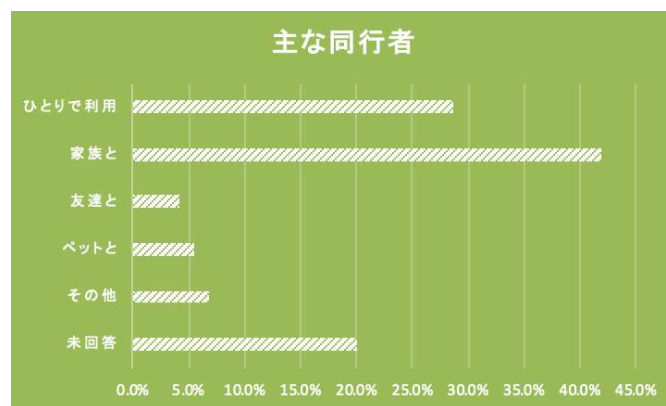
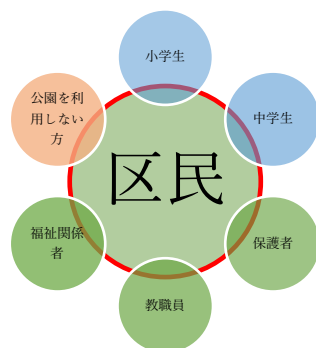
【調査項目】

- ・基本情報（年齢、性別、居住地等）
- ・公園利用について（利用頻度、利用目的）
- ・公園の現状について（広さ、木々などの自然、休憩施設、安全性、遊具の種類や数等）
- ・遊具・施設について（遊びの内容、どんな遊びをさせたいか等）
- ・再整備に必要な要素について（よく行く公園、求める施設、再整備に考慮してほしいこと等）

第2章 公園等における現状と課題

(2)区立公園の利用状況

16歳以上のアンケート調査では約69%の方から区立公園を利用していると回答がありました。主な同行者は「家族」が約42%と最も多く、ついで「一人で利用」が多い結果でした。区立公園を利用する目的は、「散歩」が最も多く、次いで「休憩」「子供と遊ぶため」が多い結果でした。



利用頻度が多い区立公園は、東郷元帥記念公園、千鳥ヶ淵公園、外濠公園など、区立公園の中で面積が大きく、多くの方が利用できる広場や遊び場などを有している公園が挙げられました。一方で面積の小さな公園は、遊び場機能や休憩施設を有していてもあまり利用されていない傾向でした。

利用者が多い公園

1)面積が大きく利用者也多い



東郷元帥記念公園

187119.43m² 平日 2206 人 休日 929 人

2)面積は小さいが利用者が多い



龍閑児童公園

(261.61m² 平日 458 人 休日 270 人)

利用者が少ない公園

3)面積は大きいが利用者が少ない



内幸町広場

(2596.00m² 平日 31 人 休日 32 人)

4)面積が小さく利用者也少ない



中坂児童遊園

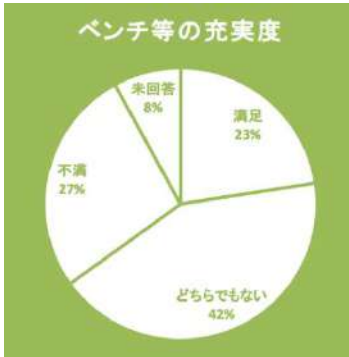
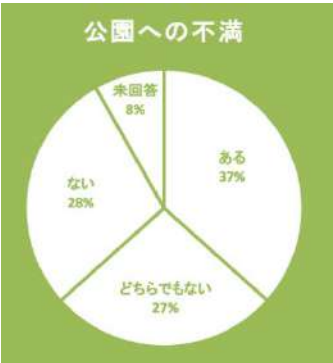
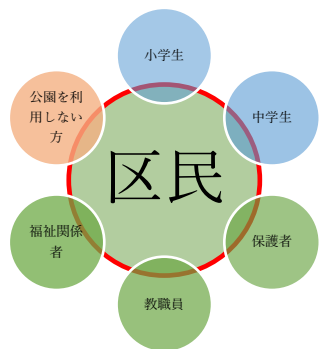
(87.92m² 平日 12 人 休日 0 人)

()内利用人数はカウント調査より、目視で利用者をカウント

- ・調査期間：令和4年10月3日(月)～17日(月)の平日・休日の2日間で実施
- ・調査時間：午前9時～午後6時(9時間)

(3)公園の満足度について

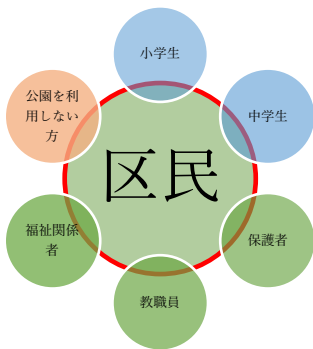
16 歳以上のアンケート調査の中で利用頻度の多い区立公園に対して、約 64%の方が「満足していない」と回答されました。特に「遊具の充実度」については、約 80%の方から「満足していない」という結果が得られ、豊富な遊具や新たな遊び場機能の拡充が求められていることが分かります。また、ベンチなどの休憩施設や照明・園内サインなどについても 65%以上の方から「満足していない」という結果が得られました。



(4) 区立公園の魅力をアップするための取組みについて

16 歳以上のアンケート調査の中で区立公園の魅力をアップするために、身近な公園に求める施設について「花や木々が溢れる空間」が約 64%と最も多く、次いで「ベンチ等の休憩施設」「防犯・避難施設」が多い結果でした。

また公園を再整備する際に考慮して欲しいこととして、「利用者の意見を聞いた整備をして欲しい」という回答が約 44%と最も多い結果となりました。

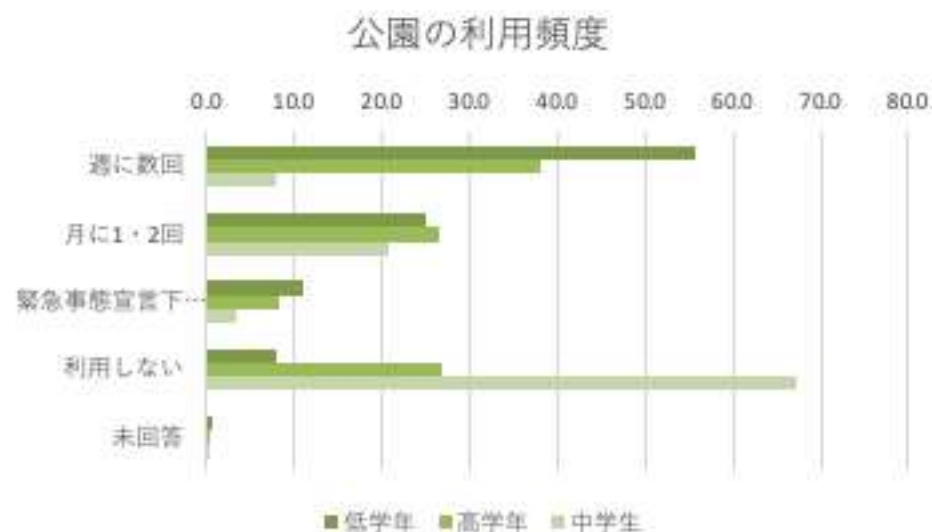
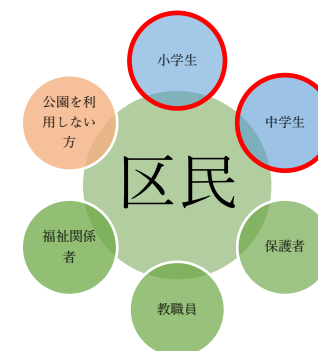


(5) こどもの目線にたった魅力ある公園づくり

幅広い年代のより多くの子どもたちから率直な意見が聞くために、千代田区内にある公立・私立含めた全小学校・全中学校にアンケートを配布し「子ども達の声」を調査しました。

小学生へのアンケート調査では約83%の方から区立公園を利用していると回答がありました。利用頻度が多い区立公園は、東郷元帥記念公園、和泉公園、神田児童公園などが挙げられ、小学校と隣接し広場や複合遊具等の遊び場機能を有している公園が挙げられました。一方で子どもたちには、面積の小さな公園（児童遊園・広場）は利用されておらず、一部の公園に利用が偏っていることが分かりました。

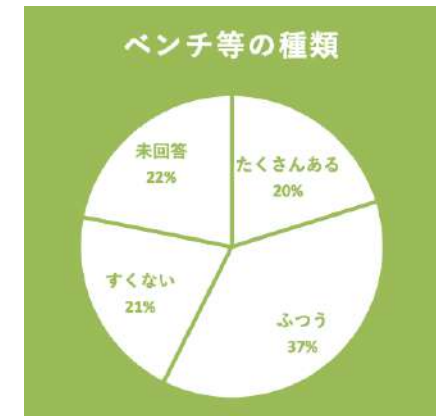
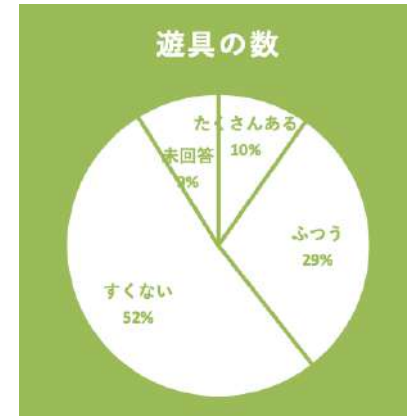
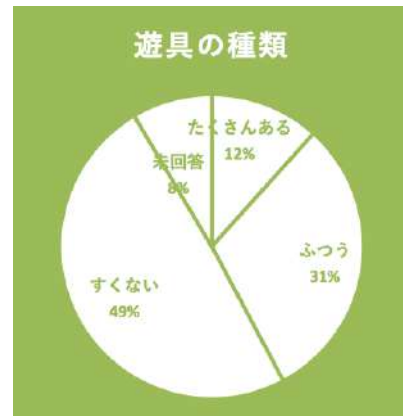
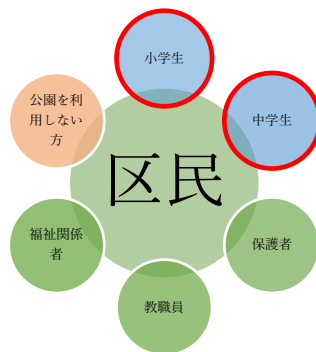
区立公園を利用する目的は、「遊び」が最も多く、次いで「運動」「友達とのお話」が多い結果でした。



中学生へのアンケート調査では約67%の方が区立公園を「利用しない」と回答がありましたが、これは校則等で寄り道が制限されている学校が多くあるためです。

(6) こどもたちの公園の満足度

公園の満足度については、約 80%の小学生が「遊具の種類と数」について満足していないという結果が得られ、豊富な遊具や新たな遊び場機能の拡充が求められていることが分かります。また、ベンチなどの休憩施設やトイレなどについても 70%以上の小学生から「満足していない」という結果が得られました。



また、本アンケート調査ではこどもたちから 1061 件の自由意見をいただきました。「遊具」や「ボール遊び」に関する声や「公園の禁止事項」に関する声など多様な意見が挙げられています。

～ 麴町地域～

- ・遊具が少ないし、ふれあえる木々や岩や丘もなく、みんなで考えて遊んだりかくれんぼをしたり、楽しく過ごせません。
- ・なにも遊具がない公園が多すぎるし公園に対する不満が沢山ある。
- ・公園のトイレはこわくて使いにくい。
- ・ボールや花火が出来る公園がないから作って欲しい。

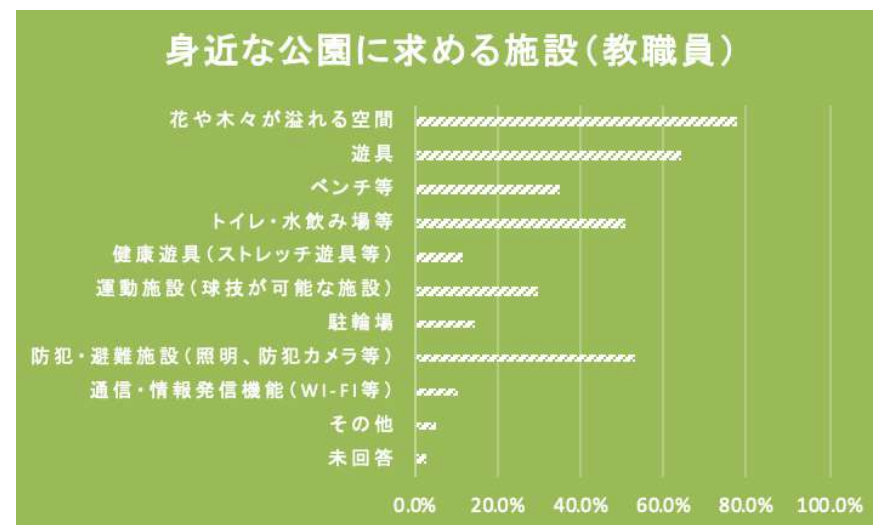
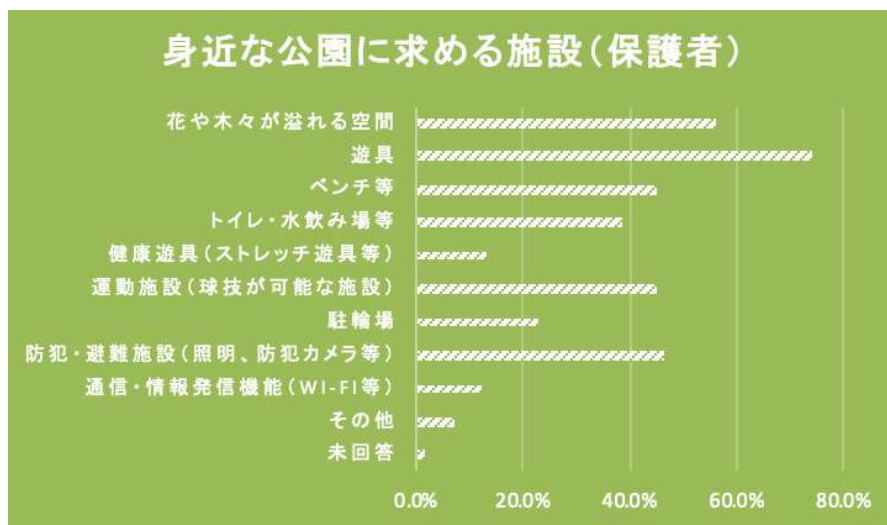
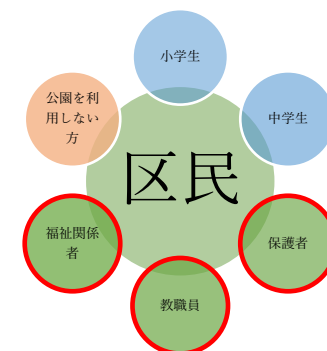
～ 神田地域～

- ・いろんな遊びができる公園や広場があるといいなと思います。ボール遊びやかけっこ、鬼ごっこ、遊具など
- ・スケーターで思い切り遊べる広場が欲しい。神田駅の近くに遊具がいっぱいある公園が欲しい。
- ・野球の素振りやキャッチボールが出来ない。遊具が少ない。
- ・ブランコやターザンロープが欲しい。滑り台を長く急にして欲しい。
- ・遊んでもいい自然を増やして欲しい！また、広いほうがいい。

(7) 保護者や教職員からみた身近な公園にあったらいいなと思う機能や施設

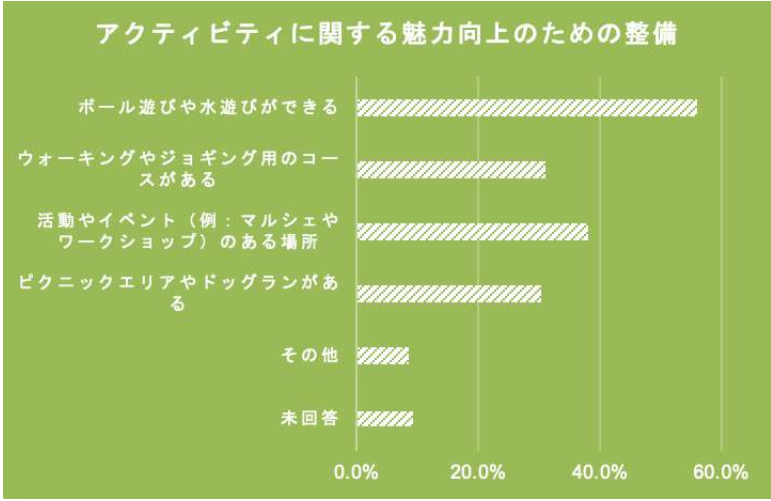
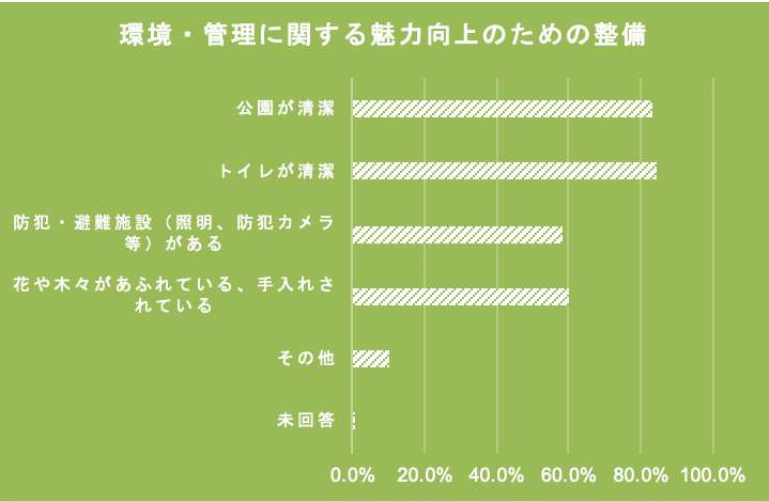
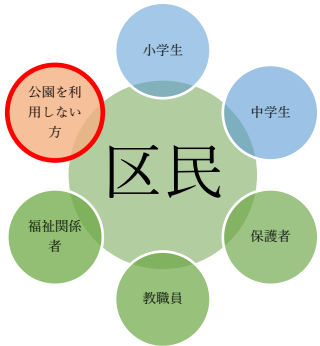
保護者へのアンケート調査では、身近な公園に求める施設について「遊具」が約74%と最も多く、次いで「防犯・避難施設」「運動施設」「ベンチ等休憩施設」が多い結果でした。教職員等へのアンケート調査では、身近な公園に求める施設について「花や木々が溢れる空間」が約78%と最も多く、次いで「遊具」「防犯・避難施設」が多い結果でした。

また「こどもにどんな遊びや学びをして欲しいか」という設問に対しては、保護者は「遊具での遊び」（約50%）が最も多く、教職員は「水遊びなど自然とふれあう遊び」（約53%）が最も多い結果になりました。



(8) 区立公園を利用しない人からみた公園の魅力アップ案

令和5年度に実施した「区立公園を利用しない人」向けのWEBアンケート調査では、公園を利用しない理由は「忙しいので行けない」が約38%と最も多く、次いで「魅力のある公園等がない」「公園等に興味関心が特にない」が多い結果でした。公園でできたらいいと思うアクティビティについては、「ボール遊びや水遊び」が約56%と最も多く、次いで「活動やイベント（マルシェやワークショップ）」「ウォーキングやジョギング用のコース」が多い結果でした。また「公園やトイレの清潔感」は80%以上の方より求められていることが分かりました。



【現状と特性】エリアの大半が文教地区に指定され、落ち着いた環境が維持されている。外濠公園の眺望や桜並木、北の丸公園、靖国神社など、大規模な緑の眺望や、安らぎある環境を身近に感じることができる。

【課題】小規模の限られた公園が多い

【現状と特性】古書店街、スポーツ用品店街等、個性ある界隈が存在する。錦華公園がリニューアルされた。

【課題】児童遊園など小さな公園の性格付けがされていない。

【現状と特性】区内で最も多くの人が住み、高齢化が進む一方で、ファミリー層や子どもも同時に増加。公園の平均面積は広く、東郷元帥記念公園がリニューアル中。

【課題】身近な緑・空地の不足

【現状と特性】 神田明神やニコライ堂等歴史的資源が多数存在し、神田祭に象徴される祭礼文化、伝統的な下町風情を感じられる。お祭りやイベント利用が年間を通して頻繁に行われている公園がある。

【課題】画一的な整備・遊具が乏しい。

【現状と特性】下町のよさと都心の魅力が感じられる。さらに、親水性を高めた神田川や道路空間が存在するとともに、人々が気軽にふれあうような人情あふれる空間である。

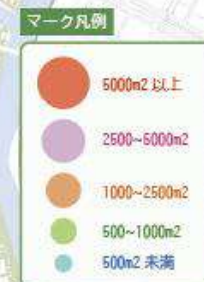
【課題】17箇所ある500㎡以下の児童遊園や広場の利用者が少ない。

【現状と特性】出世不動尊や佐竹稲荷神社などに残る歴史をまちの資源として活かし、昔ながらの下町らしさと新しい文化が感じられる。

【課題】神田児童公園に公園機能が偏っており、地域の公園としてできることのバリエーションが少ない。

【現状と特性】世界有数のビジネス拠点であり土地の高度利用が進んでいる。

【課題】区立公園の数が限られている。



8. 区立公園の課題

公園の特性と課題は大きく4つ挙げられます。それぞれ現況分析やアンケート調査等の調査分析により得られた視点です。

課題1 多様化する区民ニーズへの対応

少子高齢化や多国籍化に対応し、遊具の種類を数・種類の増加やボール遊びなどの要望に応えつつ、公園の休憩や祭事利用機能も保全する必要があります。これまでの禁止事項が多い管理から、柔軟な運用と区民ニーズに応じた公園づくりが必要です。

課題2 千代田区のポテンシャルの有効活用

千代田区は、江戸城を中心に発展し、江戸の文化と近代の機能が融合した街です。約400年の歴史を重ね、都心の風格と心地よい環境を継承しています。公園等を始めとする伝統文化の発信に加え、環境の保全やベンチなどの休憩施設を整備することで、魅力ある公園を将来に引き継ぐことが重要です。

課題3 子育て世帯や高齢者・障がい者への対応

少子高齢化が進行中ながらも、区の人口は増加しています。しかし、子供向け遊具の整備率は3割と低く、小規模公園では遊具が不足しています。遊具の種類も限られており、選択肢の少なさに不満があります。そのため、公園の特性に合わせた遊びのバリエーション増加が求められています。また、健康遊具の数も少なく、高齢者や障がい者が使いやすい公園への改善が必要となっています。

課題4 様々な主体との連携の必要性

現代は行政、地域住民、ボランティア、民間企業等が公園の管理や運用に関与することができます。公園でのイベント開催や新サービス提供を推進し、基本的な維持管理だけでなく、ルールの緩和に伴う見守りや清掃等のサービス拡充が求められています。これには各主体との連携が重要です。



点在する歴史資源



充実した遊具



アダプトシステムによる草花の管理